

日本図書館研究会情報組織化研究グループ月例研究会 2009 年 10 月月例研究会,  
2009 年 10 月 17 日. 於, 大阪市立浪速人権文化センター 5 階集会室 2.  
(テーマ) EAD, EAC, EAG, そして DACS: アーカイブズ情報の共有・交換は実現するか

## EAD, EAC, EAG の概要

Introduction to EAD, EAC, EAG

五島 敏芳 GOTOH, Haruyoshi

京都大学総合博物館 (京都大学研究資源アーカイブ担当)

Archivist for Digital Collections, Research Resource Archive, Kyoto University

### (要旨)

ここでは, アーカイブズの記述の国際標準を実現するためのデータ構造の標準について説明する. アーカイブズの記述を符号化しデータとするためのデファクト標準として, EAD, EAC, EAG の 3 つをあげることができる. この 3 つの概要と, 日本での適用の経緯を, 紹介する. その上で, アーカイブズの情報共有・交換は, 国際標準という思想や考え方だけでもデータ構造だけでも, 実現しないことを確認し, データ内容の標準としての目録規則 DACS への期待を示してむすびとする.

### § はじめに

- アーカイブ資料管理の 2 つの原則.
  - A 出所原則 principle of respect des fonds/provenance.
  - B 原秩序尊重原則 principle of respect for original order.
- なぜ EAD だったのか: EAD の開発, SGML による限界の突破, XML による展開, etc.
- なぜ EAD だったのか: 日本のアーカイブ資料の記述への適用の理由.

### § 符号化永久保存記録記述 EAD

- 1993 年~, Encoded Archival Description. <http://www.loc.gov/ead/>  
cf. ISAD(G)第 1 版, 1994 年~. 同第 2 版, 2000 年~.
- catalog と inventory の統合. 入れ子構造 (階層的構造) のデータをあつかえること.
- 2002 版での XML 正式対応.

### § 符号化永久保存記録脈絡 EAC

- 2001 年~, Encoded Archival Context. <<http://www3.iath.virginia.edu/eac/>>※  
cf. ISAAR(CPF)第 1 版, 1996 年~. 同第 2 版, 2004 年~.
- 〈作成者の記述〉から. 出所についての採用語・不採用語の掲出という用語統制.
- 平板なデータ構造. EAD 要素を用い MLA の既存のデータを取り込む部分あり.
- ※現在 EAC は, EAC-CPF に継承され, 廃止.
- 2009 年~, Encoded Archival Context – Corporate bodies, Persons, and Families (EAC-CPF). <http://eac.staatsbibliothek-berlin.de/>

五島敏芳. EAD, EAC, EAG の概要. 日本図書館研究会情報組織化研究グループ月例研究会, 2009-10-17 (於, 大阪市立浪速人権文化センター), 2

→EAD シリーズ標準としての共通的要素名からの脱却, METS ライクな包装体要素 wrapper elements の導入.

## § 符号化永久保存記録機関便覧 EAG

○2001 年～, Encoded Archival Guide.

<http://censoarchivos.mcu.es/CensoGuia/proyecto.htm> ※

cf. ISIAH 草稿版, 2007 年. ISDIAH 第 1 版, 2008 年～.

○まず資料を持っているところの把握を, 欧米スペイン語・ポルトガル語圏 (Ibero-America) のアーカイブ機関の電子ガイド構築プロジェクトから.

○EAD, EAC と共通の要素・構成, 2008 年にアルファ 0.2 版 DTD.

※2009-10 現在, リンクが無効.

## § むすびにかえて: 目録規則としての DACS への期待

○日本におけるアーカイブズ記述のデータ内容の標準の不在, その必要性の指摘 (五島ほか 2005). ...とくにデータの書き方, 形式のもたらす効果.

○日本の文書館世界は, ICA 国際標準には注目しても, 目録規則の必要性を認識していないし, それを策定する能力もない. →既存の標準の輸入でよい.

○データ構造の標準類を意識しつつ APPM2 と RAD (カナダ) を改訂・統合する試みの産物の一つ DACS, Describing Archives: A Content Standard は, ふさわしい内容をもつ.

## 参考文献 (抄)

五島敏芳. 日本の記録史料記述 EAD/XML 化と記録史料管理: 記録史料管理過程における EAD 利用の位置をめぐって. 情報知識学会誌. 第 12 巻 4 号, 2003 年 1 月, pp.3-21.

五島敏芳. "EAD の概要と日本における動向: 国文学研究資料館の事例紹介を中心に". デジタルアーカイブ連続講演会. 東京, 2005 年 10 月 20 日.

URL. [http://archives.nijl.ac.jp/DAS/projects/eadfa/20051020\\_gotoh.htm](http://archives.nijl.ac.jp/DAS/projects/eadfa/20051020_gotoh.htm)

五島敏芳, 丸島和洋, 戸森麻衣子, 村越一哲, 岩熊史朗. アーカイブズの電子的検索手段の構築・表現. 記録と史料. 第 15 号, 2005 年 10 月, pp.25-40.

五島敏芳. 日本におけるアーカイブズのオンライン総合目録構築にむけて. 記録と史料. 第 18 号, 2008 年 3 月, pp.1-17.

Daniel V. Pitti. "Encoded Archival Description: An Introduction and Overview". *D-Lib Magazine*, Vol.5, No.11. 1999-11, URL. <http://www.dlib.org/dlib/november99/11pitti.html>

Daniel V. Pitti & Wendy M. Duff ed. *Encoded Archival Description on the Internet*. New York: The Haworth Press, Inc., 2001, 241p.

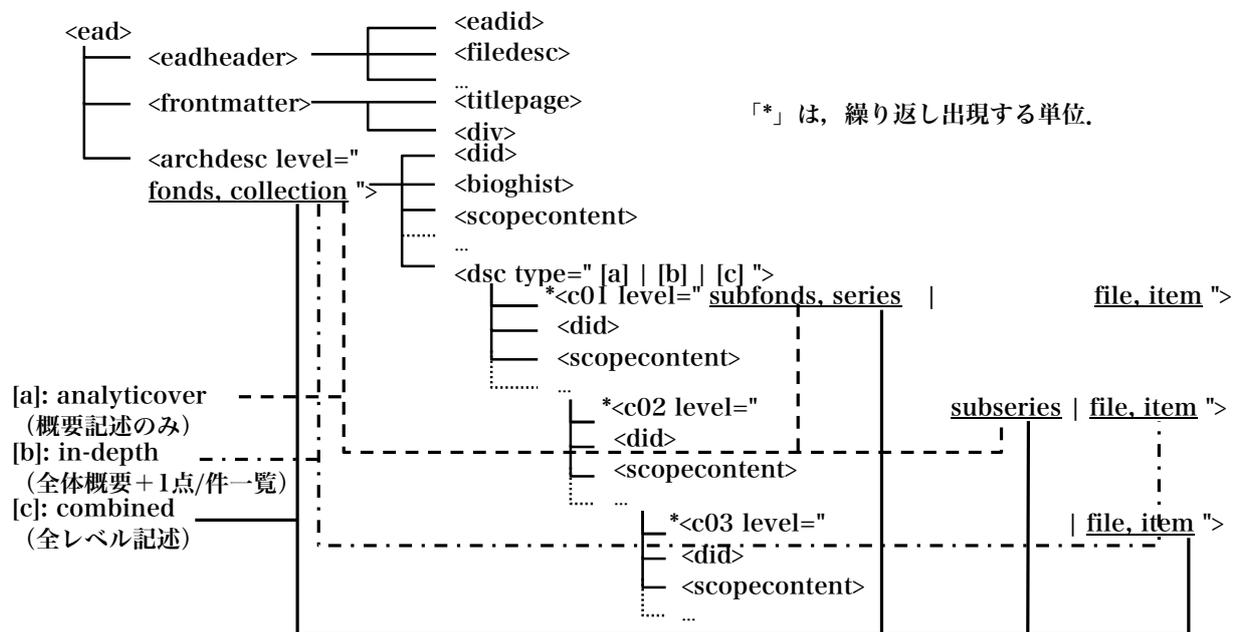
Daniel V. Pitti. "Creator Description: Encoded Archival Context". *International Cataloguing and Bibliographic Control*, 33, (2). 2004 (April/June), pp32-38.

(cf.) URL. [http://www.sba.unifi.it/ac/relazioni/pitti\\_eng.pdf](http://www.sba.unifi.it/ac/relazioni/pitti_eng.pdf)

Stocking, Bill, and Fabienne Queyroux, eds. *Encoding Across Frontiers*. New York: Haworth Information Press, 2005.



(参考 3) 記述の水準・深度による EAD データの種別 (©2005-2009. GOTOH, Haruyoshi.)



(参考 4) EAD・EAC・EAG の相互の関係 (作図: 五島敏芳, 2009/-).

